

5 - 2 東海地方の微小地震の分布 (1998年5月1日~1998年10月31日) Distribution of Microearthquakes in Tokai District(May 1-October 31,1998)

名古屋大学理学部
School of Science, Nagoya University

前報¹⁾ に引き続いて1998年5月01日より1998年10月31日までの6カ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

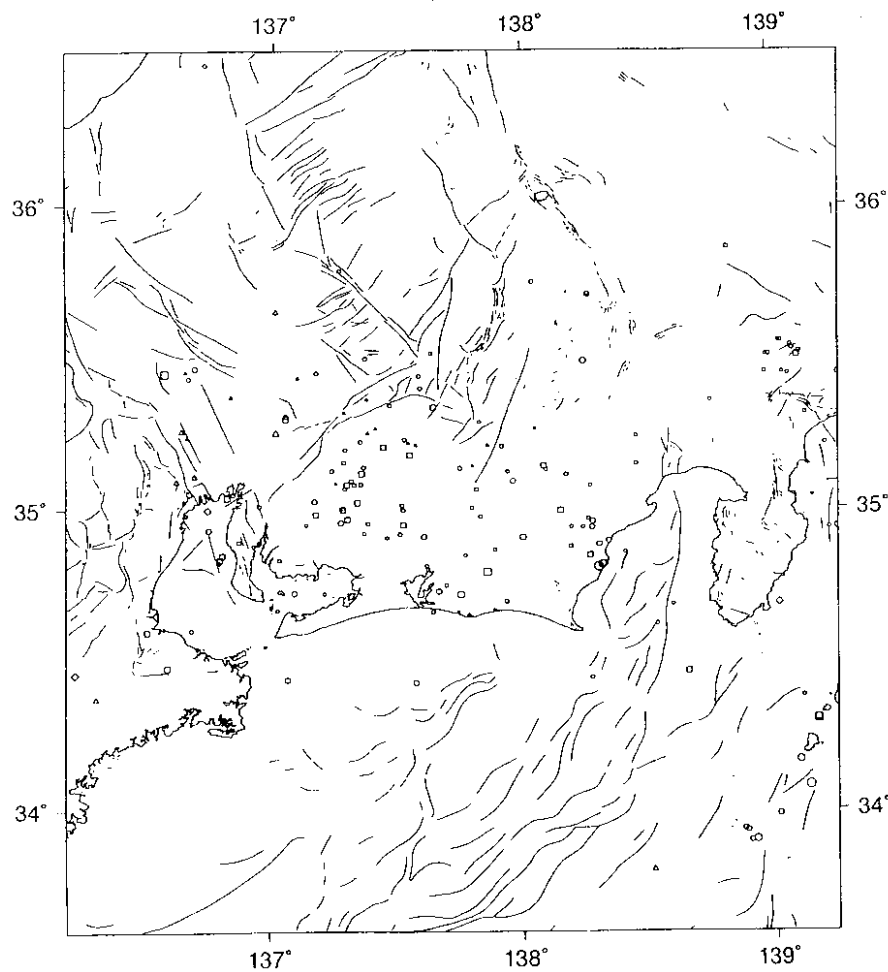
第1図は1998年5月1日より1998年10月31日までの6カ月間に名古屋大学理学部, 東京大学地震研究所, 京都大学防災研究所及び気象庁の地震テレメータ観測網によって観測された20km未満の深さで発生している地震の震央を3カ月ずつの期間に分けて示したものである。第2図は同じ期間に20km以深から80km未満の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 上部地殻内に発生する地震については, 東海地域では三重県北部の4月22日のM5.4の地震の余震活動は続いているものの, 7月までは静穏であった。
- (2) 長野県西部地域ではほゞ定常的であったがこれまでの活動域より北東部での活動が目立っている。
- (3) 伊豆半島東方では4月22日の活動に引き続き今期の全般は活動的であった。また, 後半は神津島付近で活動的であった。
- (4) 8月7日から上高地付近で群発活動があり, 12日頃から北方の穂高付近に活動域が拡大した。8月16日には槍ヶ岳付近でM5.4の地震が発生し, 余震と思われる活動があった。その後, 上高地付近を除いてこの地域の活動は急速に静穏化した。8月27日頃穂高付近で活動があった。その後は静穏化しているが上高地付近の地震活動は継続している。9月5日にM4.6の地震が長野・富山県境の野口五郎岳付近に発生し, この地震の余震活動と見られる活動があった。この活動も以後は静穏化し, 9月19日に穂高付近で一時的に活発化した後, 上高地を除いて静穏化している。

参 考 文 献

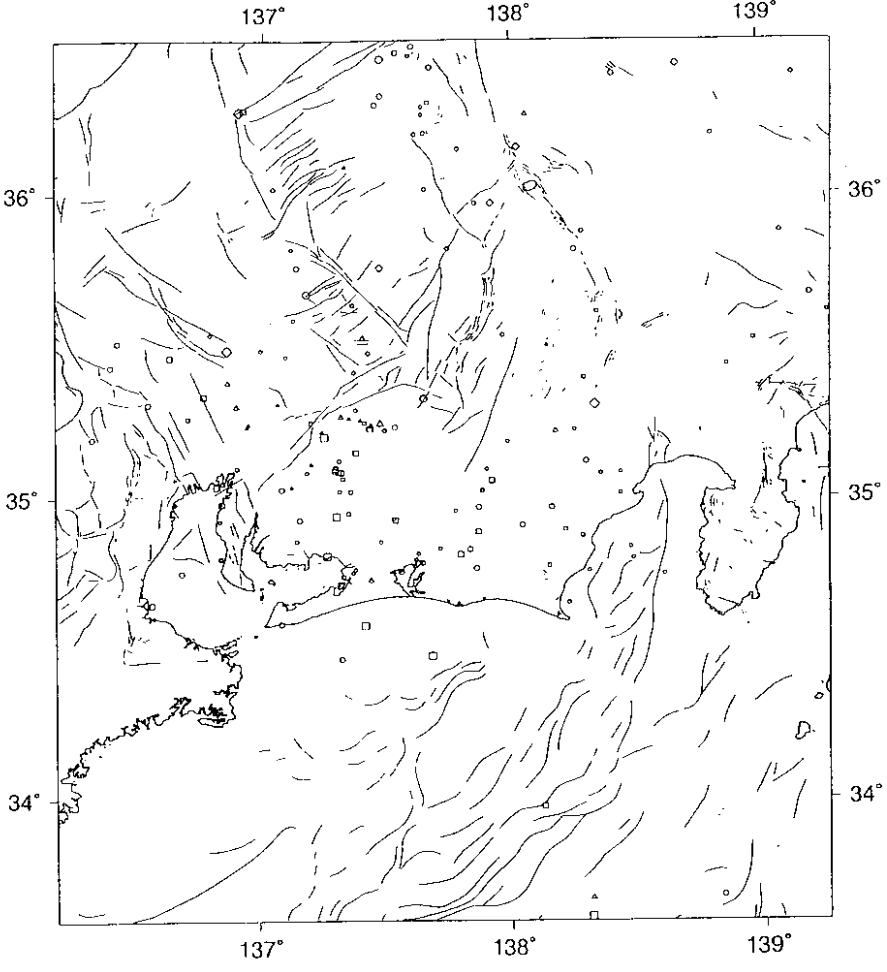
- 1) 名古屋大学理学部: 東海地方の微小地震の分布 (1997年11月1日~1998年4月30日), 連絡会報, **60** (1998), 379-382.



N= 164

DEPTH 20 30 40 50 80	MAG. 1 2 3 4 5 6 7
○ □ △ ◇	● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

1998 5 - 1998 7



N= 150

DEPTH 20 30 40 50 80	MAG. 1 2 3 4 5 6 7
○ □ △ ◇	● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

1998 8 - 1998 10

第2図 微小地震の分布 (1998年5月1日~1998年10月31日) 震源の深さが20km以深から80km未満のもの

Fig.2 Epicenter distribution of earthquakes (May 1,1998-Oct.31,1998) deeper than and equal to 20km.